

笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施

たぶせ

THE TABUSE ASSEMBLY NEWS

議会だより

第128号



題字は岸 信介先生書

2016年(平成28年)1月18日

発行/〒742-1592 山口県田布施町大字下田布施 田布施町議会 ☎ 0820(52)5800 FAX0820(52)5970

編集/議会広報広聴調査委員会 印刷/キッショウ株式会社

<http://www.town.tabuse.lg.jp/>

E-mail:gikaijimukyoku@town.tabuse.lg.jp



平成28年 成人式

成人式は、新春1月3日に挙行されました。本町の新成人は128名、会場には大きな夢と自覚をもって笑顔があふれていました。

12月定例議会	2
基本構想と総合戦略を整合しました	4
委員会レポート (総務文教・経済厚生)	6
一般質問 7人の議員が町政を問いました	8
議会だより127号を読んだ感想です	15

12月定例会

まち・ひと・しごと 創生をめざす



12月定例会本会議 (12月10日)

平成27年12月定例会は12月10日から9日間の日程で開会しました。本定例会では、補正予算5件、条例3件、総合計画の基本構想変更と基本計画策定の2件、監査委員選任と田布施町選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙の2件、陳情3件の合計15件を審議しました。なお、初日の本会議では、7人の議員が一般質問に登壇して町政を質しました。(8ページから質問順に掲載)

町長提出議案

27年度補正予算

一般会計
歳入歳出予算の総額にそれぞれ6284万円を追加し、予算総額57億5203万6千円とするもの。
【全員賛成】

特別会計
国民健康保険

歳入歳出予算の総額にそれぞれ172万1千円を追加し、予算総額24億1822万9千円とするもの。
【全員賛成】

下水道事業

歳入歳出予算の総額にそれぞれ49万4千円を減額し、予算総額8億4421万円とするもの。
【全員賛成】

介護保険

歳入歳出予算の総額にそれぞれ632万6千円を減額し、予算総額14億1101万1千円とするもの。
【全員賛成】

後期高齢者医療

歳入歳出予算の総額にそれぞれ2万4千円を追加し、予算総額2億5293万3千円とするもの。
【全員賛成】

条例

条例3件はいずれも番号法施行に伴うもの。行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例
町独自の利用はなく、番号法に定められた事務に対応する。
【賛成多数】

町税条例等の改正

【賛成多数】

町介護保険条例の改正

【賛成多数】

その他

町基本構想の変更

【全員賛成】
4P参照

町基本計画の策定

【全員賛成】
5P参照

人事

監査委員の選任

今井清弘氏の任期満了に伴い、常見京平氏を選任することに同意するもの。
【全員賛成】



常見 京平氏

任期
平成27年12月20日
から4年間

新年のあいさつ

住み続けられる町に



副議長 國永 美恵子

新年おめでとうございます。昨年は田布施町合併10周年の記念式典が行われ、改めて本町の歴史の重みを感じております。少子化の進行は決して

本町だけの問題ではありません。地方にあっても雇用が生まれ、子育てに良い環境や高齢者福祉の充実により誰もが安心して住み続けることができる自治体であるべきと考えます。地方自治の本旨に基づき安心して暮らす町づくりに努力してまいります。公職選挙法の改正で今年から18歳以上に選挙権があり、若者の政治参加を期待したいものです。

活力ある町に



議長 林山 健二

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、町議会を代表して町民の皆様にご挨拶を申し上げます。

国の方針は人も仕事も都市部から地方へと施策が出されています。本町も現在「第5次田布施町総合計画」後期が策定されています。議会も町に助言、提案をし、実情に応じた活力ある町を国、県と連携を図りながら進めてまいります。町民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

町選挙管理委員及び同補充員の選挙

当選者は次のとおりです。

(委員)

平永 芳子(宿井)
岩本 宏司(大波野上)
田中 雅秀(尾津東)
宗貞 京子(竹重)

(補充員)

三輪 道代(矢蔵)
野坂 功(西山)
井上 栄子(長田)
鳥越 昭次(八和田)

選挙管理委員

選挙権を持っている人で、人格が高潔で政治及び選挙に関するものの中から、議会の議員による選挙で選ばれる。補充員は、委員に欠員があった場合、補充順位に従い補充される。



あなたの要望はこうなりました

陳情

●場外舟券発売場の誘致中止を求める陳情書
(提出者)

場外舟券発売場の設置を考える周辺地域有志の会
代表 小中 進

【不採択】

●最終処分場建設計画に反対を求める陳情
(提出者)

麻里府の水といのちを守る会
代表 堀田 安英
田布施町麻里府地域連合自治会
会長 谷村 賢二

【継続審査】

●田布施町庁舎について現在地に新築を要望する陳情
(提出者)

田布施町庁舎を考える会
代表 大島 忠義

【継続審査】

●小規模場外舟券発売場「オラレ」の誘致反対の決議
(提出者)

千代田ケミカル(株)
代表取締役 前田 卓也
(有)周東貨物
代表取締役 山縣 正

【取下げ】

総合計画が決まりました

総合的、計画的に推進



基本構想と総合戦略を整合

第5次田布施町総合計画は、平成23年度から10年間の基本構想及び平成23年度から5年間の前期基本計画として策定されたものです。今回、基本構想については、昨年10月に策定された「田布施町人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性を図るための変更となります。

主な変更点は、第1章の基本理念と、第2章の基本目標に、「人口ビジョン」、「総合戦略」に関連する事項を盛り込み、第3章の目標人口について「人口ビジョン」による将来人口の予測や目標人口に改め、新たに第4章として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の規定を追加するものです。

1 総合戦略の策定趣旨

我が国は、本格的な人口減少社会に入り、今後人口減少が続いていくと推測されています。本町でも、出生数の低下に加え、大都市圏への人口流出が続く、人口は減少しています。

このような中、国においては、人口減少問題を国の最重要課題と位置づけ、この問題に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を築いていくため、「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、国・地方を挙げた「地方創生」の取り組みが進められています。このため、田布施町でも「人口ビジョン」と「総合戦略」に基づき地方創生に取り組むこととなります。

2 総合計画と総合戦略

総合計画が進めるまちづくりと地方創生の取り組みの方向性は、軌を一にするものです。

総合戦略は、田布施町人口ビジョンに掲げる

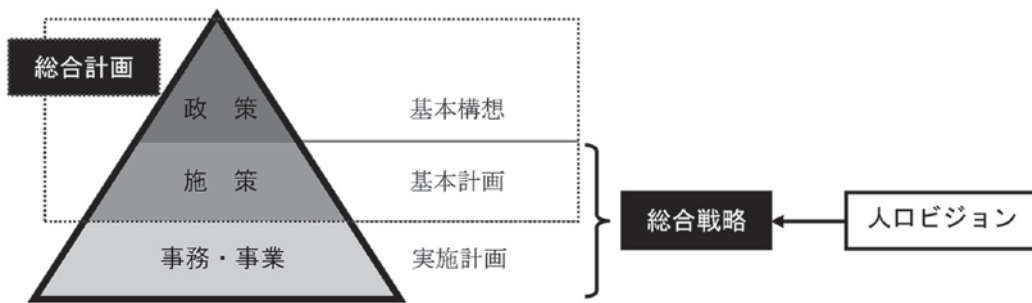
①「多様な働く場の不足による若年層の流出を止める」

②「出生率の低迷による継続的な人口減少の流れを変える」

③「安心して住み続けられる良好な生活環境を確保する」

の三つの視点を踏まえ、地方創生のための実践的な取り組みを重点的に推進するための計画として位置づけられます。

この総合戦略と人口ビジョンは、総合計画の中に下図のように、包括されることとなります。



3 計画の期間

総合戦略は、平成27年度(2015年度)から平成31年度(2019年度)までの5年間の計画で、その数値目標や重要行政評価指標(KPI)は平成32年で設定されています。

この達成度を毎年度、評価・検証し、必要に応じて改善する仕組み(PDCAサイクル)が導入されます。

4 総合戦略の構成

総合戦略は、まち・ひと・しごとを創生するための4つの基本目標と13の施策の柱、それを具体的に示した38のアクションプランから構成されています。

第5次田布施町 子育て支援事業を

後期基本計画を策定しました



今回、策定される後期基本計画は、これまでの5年間の評価を踏まえ、「総合戦略」に掲げる新たな施策も盛り込み、平成28年度から平成32年度の計画となります。

計画の内容は、基本構想で定める町の将来像と6つの目標に沿って、各項目ごとに現況と課題、基本方針及び主な施策を定めたものです。

① 子どもの豊かな育ちを支える体制づくり
就学前の教育・保育の充実、次世代の親の育成などを基本施策として子どもの豊かな育ちを支える体制づくりが実施され

安心して子どもを産み、育てられるよう、少子化対策・子育て支援の指針となる「田布施町子ども子育て支援事業計画」に基づき次の4点を中心に実施されます。

特に、前期計画から施策的に拡充されたものの一つが、「子ども子育て支援事業」です。人口減少対策に欠かせない施策として後期基本計画の重要施策として位置づけられていますので、紹介しま

ます。これにより幼保小連携の推進、認定こども園の普及、育児サークルなど仲間づくりや情報交換などの環境整備、若者参加による乳幼児とのふれ合う機会の設置により子どもを支えていきます。

② 子どもが健やかに成長するための環境づくり
子どもが安心して暮らせる環境、子どもの人権を守る環境、障がいのある子どもと家庭の支援などを基本施策として子どもが健やかに成長するための環境づくりが実施されます。これにより乳児

地域における子育て支援の充実、親の子育て力の向上、子育て支援する事業の充実などを基本施策として子育てを支える体制づくりが実施されます。これにより子育てカフェの設置や子育てワークショップ開催の検討、

③ 子育てを支える体制づくり



馬島探検ツアー

保育サービスの実施ワーク・ライフ・バランスの推進を基本施策として仕事と子育てを両立させる社会づくりが実施されます。これによりファミリーサポートセンター事業、放課後児童クラブなどサービスの充実を図られます。

④ 仕事と子育てを両立させる社会づくり
各種子育て講座などを活用した子育てサークルの育成や環境づくりなどにより子育てをサポートしていきます。



凧揚げ大会

委員会レポート

総務文教



総務文教委員会

総務文教委員会を 12 月 16 日に開き、27 年度一般会計補正予算、条例 2 件、その他 2 件、陳情 2 件を審査しました。

補正予算

一般会計

Q人工透析の国保と更生医療との関係は。

A申請（町民福祉課）して更生医療に該当しなければ国保だけになる。

Q柳井市幼児ことばの教室に何人通っているか。

A本町からは 3 人。柳井市、田布施町、平生町、上関町の 24 人が通っている。

Q明治維新 150 年祭、観光案内板はどこに設置されるか。

A田布施川桜土手、のんびらんど・うましまの夕日スポットの 2ヶ所。

Q図書館の検索システム改修とは。

A旧字体表示やアルファベット入力ができる等の

改修。

条例

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律

及び特定個人情報提供に関する条例

Qマイナンバーの顔写真代金の補助はできないか。

A全額本人負担。

Q本人へ配達、受け渡しされていない数は。

A現在 425 通。3 月末までには可能なものは配る。

Q県外の自治体で職員が情報を持ち帰って売る行為があったがセキュリティは大丈夫か。

A罰則のルールの中で十分な管理はしている。

Qマイナンバーのための

窓口はできているか。
A12 月 1 日から専用窓口を設けている。

町税条例等の改正
【全員賛成】

その他

町基本構想の変更
【全員賛成】

町基本計画の策定
【全員賛成】

陳情

場外舟券売場の誘致中止を求める陳情書

Q提出者は青少年への悪影響等主張されているが、設置場所は学校から離れている。通学路からは直接目に触れない。入口は警備員が常駐。防犯カメラも多数設置。警察のパトロールの巡回ルートにもなる。

【不採択】



場外舟券売場「オラレ」



田布施町役場

田布施町庁舎について現在地に新築を要望する陳情書

Q提出者は今後の庁舎について

①現在の庁舎の耐震化
②旧田布施工業高校に移転。校舎等改修して使用
③現在の庁舎を新築

この 3 案の内③を主張。町は②案のようだが、費用対効果を十分考えてのことか。

A②案だと約 8 億円。③案は約 16 億 8 千 8 百万円と試算。町財政を考えると②案が妥当。

【継続審査】

総務文教視察研修レポート

定住促進策の取り組みで島根県大田市を 11 月 19 日に、議会基本条例の研究のため翌 20 日に鳥取県北栄町を視察した。

◇大田市の定住促進策

平成 25 年 4 月から 5 か年の第二次大田市定住促進ビジョンが策定され、今年度「住みたい田舎」日本一になった。世界遺産等をアピールし、定住支援ガイドブックを読めば、若者の移住に結びつく。見開きに予算の範囲内で、なくなり次第終了と明示され、読者に何か早くしなければと思わせるのも面白い。支援のポイント

◇北栄町の議会改革

平成 17 年に 2 町合併で人口、面積とも田布施町と同規模の農業の町。ケーブルテレビ、インターネットで議会放映され、ホームページで議案に対する個人の賛否を公表している。議会基本条例は平成 21 年 4 月 1 日施行された。議会の活動原則、町民と議会の関係、町長と議会の関係などについて条例化し町民に明らかにしたものである。

- ①住まいお世話します
- ・空き家バンク制度
- ・定住奨励制度
- ・新婚さん住まい応援
- ②子育て世代応援します
- ・中学生以下の医療費が無料
- ・保育料の軽減
- ③就業応援します
- ・創業支援
- ・無料職業紹介所
- ④お試し居住しませんか
- ・お試し体験施設
- ・山村留学
- ⑤エコな生活応援します

意見交換会で地方自治法があり基本条例不要を、北栄町議員は主張する人が多数を占めた。条例については十分過ぎるくらい検討するようアドバイスを受けた。

経済厚生



経済厚生委員会

経済厚生委員会を 12 月 14 日に開き、27 年度一般会計補正予算、条例 1 件、その他 2 件を調査、特別会計補正予算 4 件、条例 1 件を審査しました。最終処分場建設計画に反対を求める陳情は「継続審査」となりました。

補正予算

一般会計（予備審査）

Q児童クラブは 6 年生まで受け入れるようになったが対応できているか。

A児童クラブの補助員を増員して対応している。

Q公園の修繕、改善の要望を出しているが中々実現しないがなぜか。

A町内にかんがりの数があるので計画的に行う。

Q観光協会は J-U 協と同じ所に移転するが場所はいいのか。

A事務所は J-U 協事務所と兼用し、情報発信はいきいき館を使用する。

Q病児・病後児保育事業負担金とは何か。

A柳井、平生、田布施が共同で設置予定の施設の準備金。

Q麻郷道路拡張で立ち退きの消防機庫はどうなるのか。

A移転場所を探して新築する。【全員賛成】

特別会計

国民健康保険 【全員賛成】

下水道事業 【全員賛成】

介護保険 【全員賛成】

後期高齢者医療 【全員賛成】

条例

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例（予備審査）
Qマイナンバーの受け取り拒否はできるか。

A受け取らなくても番号は決まっている。

Q情報セキュリティは良いのか。

Aセキュリティに、100%はないが万全を期して対策する。

Q年金番号はマイナンバーと同じになるのか。

A将来は同じになる。【賛成多数】

介護保険条例の改正 【賛成多数】

その他

町基本構想の変更（予備審査）

Q今できている冊子が正式か。

A3月に印刷する。

Q冊子は全戸配布か。

A各戸に概要版を配布。【全員賛成】

町基本計画の策定（予備審査）

Q計画は見直しをするのか。

A下部計画の実施計画を3年間で見直す。【全員賛成】

陳情

最終処分場建設計画に反対を求める陳情【継続審査】

経済厚生視察研修レポート

11月17日に予防医療について岡山県矢掛町を翌18日に地域資源活性化について同県吉備中央町を視察した。

◇矢掛町の予防医療の充実
特定健診の受診率の向上が町民の健康維持の第一歩と捉え、愛育委員103名を委嘱し個別訪問・声掛けにより健診を推進していた。

平成23年度の健診受診率は54%、平成26年度は60%と岡山県下上位で毎年推移しており、田布施町の受診率は27%で2倍以上であった。

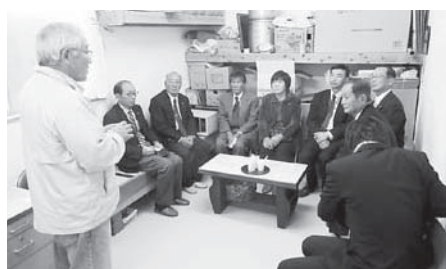
◇吉備中央町の地域資源活性化プロジェクト
イノシシによる農産物被害は岡山県全体で問題になっており、その被害地域は年々広域化しており、農業者の生産意欲の減退や耕作放棄地の増加等が問題となっていた。

捕獲した獣の有効活用が求められるなか、「イノシシ処理加工施設」の建設を行ない、肉は隣接岡山市内のフランス料理店などの高級ジビエ料理として用い、また道の駅での販売やスーパーではミ



矢掛町役場

矢掛町健康センター（保健サービスを総合的にこなう施設）にはトレーニ



吉備中央町のイノシシ処理加工施設にて

ンチ肉をコロツケとして販売していた。
排出皮も貴重な資源と捉え、しっかりと下処理をして適切にみすことと革製品の材料として活用していくと取り組みを始めていた。
両町で見聞きした貴重な知識を、町政に織り込んでいきたいと思った。
早速、二名の議員からこの研修の結果を田布施町に活かさないかと一般質問があった。



12月定例会 一般質問

7人の議員が町政の課題を問う

一般質問

一般質問は、町政全般について、町長など執行機関の考え方や方針を問いただすものです。ここでは紙面の都合上、質疑の中から内容の一部要旨を掲載しています。

平成 28 年度予算

幸せや豊かさが持てるか

瀬石 公夫

福祉増進を図る

長信町長



瀬石 公夫 議員

Q 田布施町に足りないもの、少しでも早く取り組むべきものを中心に施策を立て予算化し住民生活の「幸せや豊かさ」に繋げて欲しい。

A 現在、保健センターは、西田布施公民館に併設しているため、センターとしての独立性がなく、利用者にとって分かりにくい施設となっている。健康づくりや介護予防等を積極的に推進していくためには、保健活動の拠点施設の整備について検討する必要がある。

国民健康保険

来年度の税率は

瀬石

据え置く予定 町長

Q 国保税が高いと被保険者から良く聞く。療養給付費、高額療養費等の支払い実績を踏まえた、来年度の税率は。また、近隣ほとんどの市・町が法定外(市・町単独)での繰入金を行ない国保税の負担軽減を図っている。本町も繰り入れができないか。

A 保険給付費は、支払い実績を踏まえて推計すると、前年度とほぼ近い見込み額であり、来年度の保険税率は、据え置く予定である。



田布施町国民健康保険

国保パンフレット

多額の繰入金は一一般会計を圧迫することになり好ましくない。財政状況を勘案して、政策的に判断していくことになる。

ほ場整備

進捗状況は

瀬石

本年度は順調に進んでいる

町長

Q 国営ほ場整備が実施されているが、業者不足や予算の減額により工事進捗が遅れている。

工事の遅れによる計画変更はどのようになっているか。また、新たに4地区からほ場整備の追加

要望があるが、これを含めた全ての事業の完成時期、負担金支払時期は。

A 昨年度に実施できなかった「西山・潤田団地」「中西団地」の整備、新規で「瀬戸団地」の一部の整備を実施する。

順調な工事実施を踏まえ、関係各所に進捗回復に向けた予算確保の要請を行っている。

全ての完成時期は、現時点では特定できない。



ほ場整備(中西団地)

特定健康診査

受診率は上げられるか

西本 篤史

少し上がった

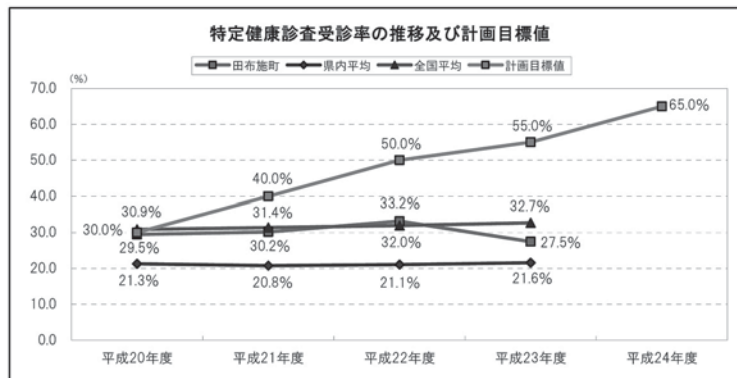
長信町長



西本 篤史 議員

Q 国、町は特定検診等実施計画で受診率の目標を65%としているが、平成26年度で27・1%と目標を下回っている。岡山県矢掛町は、検診率は26年度が60%である。愛育委員の熱心な自宅訪問、啓発活動など官民で取り組んでいる。町もやればできると思うがどうか。

A 本町の受診率向上対策の取り組みにより、平成26年度の受診率は、前年度と比較し、1・2%増加し、27・1%となった。今年度は、未受診者へハガキで通知。節目の年齢の方の自己負担額を無料化。個別健診だけでなく、がん検診と同時に実施する予定。



携帯・スマホ

成績は下がっているか

西本

下がっている所もある

尾崎教育長

Q 平日にLINE等の無料通信アプリを使用すると、睡眠時間や家庭学習時間に関係なく、使用時間に応じて学力が低下するとの調査結果を研究機関が発表した。これは「メディア被爆」という現代病である。教育委員会も対策をした方がよいのではないか。

A 小学校では、学力調査の正答率が高かった小学校では携帯・スマホの長時間使用の割合が低い。長時間使用の割合が一番高かった小学校は、学力調査の正答率が低い結果。今後の対応として、「学習キットを利用した情報モラル教育」を、小中学校で進めていく。

田布施町内小中学校の「携帯・スマホ、TV・ゲームの使用状況」

	小6				全国小6	中3	全国中3
	A校	B校	C校	D校			
使用しない	10.6	8.6	18.2	34.8	13.2	22	16.2
1時間以内	27.7	28.6	45.5	34.8	31.6	29.7	25.8
1-2時間	23.4	28.6	18.2	26.1	24.4	20.3	21.5
2-3時間	19.1	11.4	2.3	4.3	13.2	13.6	15.8
3-4時間	8.5	11.4	9.1	0	7.9	7.6	9.5
4時間以上	10.6	11.4	6.8	0	9.1	6.8	11

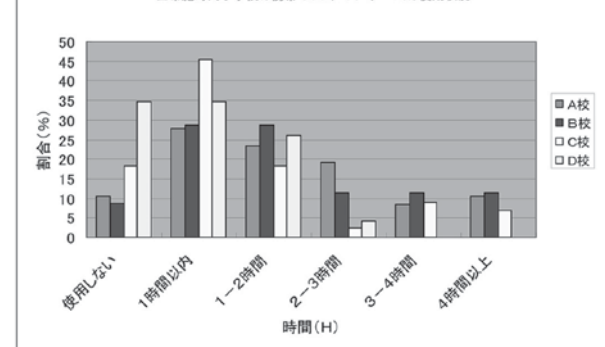
*使用時間が長いほど平均正答率が低い。

田布施中学校ネット依存実態調査

	(%)
LINE等無料通信アプリ利用率	50.6
オンラインゲーム利用率	57.3
インターネットショッピング利用率	20.2
ネットで知り合い直接会った事がある	4.1
トラブルや睡眠時間が少なくなり困っている	13.6

*田布施町教育委員会提供 2015.4 調査

田布施町内小学校の携帯・スマホ、TV・ゲームの使用状況



自治会組織

役割の検討整理は

松田規久夫

地域の話し合いで

長信町長



松田規久夫 議員

Q 少子高齢化で戸数の少ない地区は役員候補者の不足、多い地区は仕事量が多くなり人選が難しい。行政として運営に適合する規模、任期をどのように考えているか。また、各地区のコミュニティが希薄になってきている現在、自治会長の役割の検討、整理が必要と考える。

かかわるのではなく地域が決めるもの。公民館活動や地域活動の役員の兼務で負担が多いのは理解している。地域連合自治会、連絡協議会の場で協議され、支援ができるものは一緒に検討したい。

A 平成13年度から自治会制度に移行し73ある。役員構成や任期は、行政が



場外舟券売場オラレ誘致が実現すれば移転となる浜城自治会館

ふるさと納税

情報発信の工夫は

松田

納税ふるさとチョイスで 町長

Q ふるさと納税者に2種類ある。寄付によるお返しの商品を目的とする人、もう一つは思い入れのある地域への応援者だ。情報発信に工夫を凝らし、田布施のお手伝い、応援者となってもらえないものか。子どもを育てる教育の町田布施をアピールする方法はないのか。

A 平成20年度から実施。26年度から特産品を追加。更に27年度は品数を充実。28年度は「ふるさと

とチョイス」に加入するためサイトの準備中。決済システムとの連携で寄付者の利便性を高める。

寄付者は子育て支援、福祉・保健、教育、環境の4項目から選択できる。



田布施町ふるさと寄付金パンフレット

特別職の減額措置

用途の明確化を

松田

減額は恒久措置ではない

町長

Q 特別職3人の報酬減額は一般会計に埋没した状態になっている。これを一般会計の支出において特別職の減額枠として使途を明確にしたい。そう

することで、特別職のアイデアや田布施町への思いが町民に伝わる。例えば、教育長なら学校費でエアコンの設置など。

A 報酬減額措置は平成18年度から3年間の緊急財政再生プランとして実施し、引き続き継続されている。今年度の特別職の削減見込額は約400万円。この措置は1年ごとの特例条例として自主的に継続しているもので、恒久措置として使途まで特定すべきではない。

地方創生総合戦略

重点的に取り組む事業は

石田 修一

まず4事業を重点的に

長信町長



石田 修一 議員

Q 実践的な計画として総合戦略を策定し、実効性のある地方創生の取組、アクションプランの中で70もの指標があるが、特に重点的に取り組むものや優先順位の項目や職員の体制強化、国・県からの人的支援はあるのか。国から5年間の財政支援は受けられるか尋ねる。

A 重点的に取り組む事業。①サテライトオフィス誘致の取組②産官学連携で特産品開発等付加価値を付け、ブランド化③子育てワークショップを開催④IJU促進事業で移住・定住の取組。人的支援は幹部職の派遣申請中。財政支援は本年100%、来年は50%。



庁舎建設計画

再検討を

石田

旧工業高校へ移転の方向

町長

Q 庁舎建設に①庁舎新築②現庁舎の耐震化③旧田布施工業高校を改修し移転の3案。現在は旧工業高校への移転が主流。町民の要望は、築後28年経過の学校改修計画より、田布施町のシンボルである庁舎は現在地が最適で、計画が遅れても費用対効果を考え、再検討願う。

A 庁舎問題検討委員会では旧田布施工業高校を庁舎とする方向。各委員から施設利用で具体的要望提案を受け、総合窓口の導入、グランド本館棟の段差解消等レイアウト案を委員会に報告。県教委とは現地で双方の施設利用案について立会。その他の問題についても協議中。

定住促進事業

空家バンクに重点を

石田

充実させ、移住促進する

町長

Q 人口減少による地方の衰退は深刻な問題である。本町も人口ビジョンを総合戦略の基礎として、推進する考えである。「住みたい田舎」全国1位に選ばれた大分県豊後高田市、島根県大田市のように空家バンクを最重点項目とし、定住促進事業に積極的に取り組む考えは。

A 空き家情報の充実を図り、移住の促進に努める。空き家の実態調査を行っており利用が可能と判断される物件は、所有者と連絡を取り、空き家バンクへの登録をお願いする予定。たぶせIJU推進協議会と連携し、定住事業を進める。今後、支援制度の充実を図る。



旧田布施工業高校

◎その他の質問
麻里府地区活性化事業について

子どもの医療費

義務教育の期間は無料に

高川 喜彦

来年予算に向けて検討

長信町長



高川 喜彦 議員

Q 私は 9 月定例会で 18 歳までの医療費無料化を提言したが、町財政事情を再検討し、これを義務教育期間までを対象としていくことを提案する。

町の宝である幼児、児童、生徒の健康を守り、未来を担う有為な人づくりをしていくことが何より大切と考える。

A 私は、国が少子化対策を真剣に考えるのであれば、助成等の抜本的な対策を見直すべきだと考える。町としても未来を担う人づくりは何よりも大切と考えており、現在、総合的な子育て支援の充実を図っている。子どもの医療費の無料化は、財政負担も踏まえ検討する。



昔の遊び体験 (城南小)

「町民憲章」

更なる具現化を

高川

目標の理解を進める 尾崎教育長

Q 町民憲章は昭和 56 年町民約 13,000 人のアンケートを基に制定された。来年で、35 年になる。

爾来、町の各種会合や生涯教育推進等行事の中で唱和される等営々と具現化に努められている。

この町民憲章の更なる具現化を尋ねる。

A 町民憲章は、前文及び「ひとつ」から五カ条の憲章について唱和されており、それぞれの条に具体

農業改革

農業特別区域の認定を

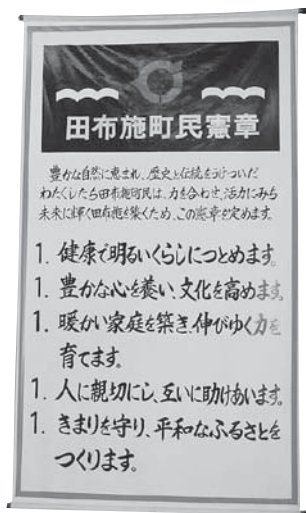
高川

総合計画で諸施策を展開 町長

Q 本町では現在国営の圃場整備事業が展開されている。わが国の農業は高齢化、後継者不足、耕作放棄地増大等の課題に直面している。

こうした中で民間事業者との連携による農業構造改革を進めることにより、農業特別区域の積極的な取り組みを提言する。

A 圃場整備後に農地が適正に維持でき、耕作放棄地が出ないようにするため、町特産のイチジク等、戦略作物を奨励し、より多角的な農業経営が可能となるよう、県、JA「南すおう地域農業再興プロジェクト」を始動し法人の経営を安定させ、新規就農者を育成する。



田布施町民憲章

豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統を誇りに
わたくしらは田布施町民は、力を合わせ、活かに
未来に輝く田布施を築くため、この憲章を定めます。

- 1. 健康で明るい暮らしにつとめます。
- 1. 豊かな心を養い文化を高めます。
- 1. 暖かい家庭を築き、仲がゆい力を育てます。
- 1. 人に親切にし、互いに助け合います。
- 1. きまりを守り、平和なふるさとをつくります。

的目標が示されている。

町民憲章の更なる具現化を進めるには、すべての会合等での唱和とはいきませんが、機会を捉えて努力目標についての理解を深めていく。

◎その他の質問

町内企業の活力増進を支援することが大切では

保健・検診の充実

図ってはいかがが

國永美恵子

新年度に向け検討 長信町長



國永美恵子 議員

Q 人間ドックの利用者負担が増額となったが、利用者が減少することなく安堵している。この受診医療機関を増やせないか。県内には脳ドックを行う自治体がある。脳ドックは問題点も言われているが、脳疾患の早期発見、早期治療に役立つ。この検診実施を検討しては。

A 人間ドックは国保の保健事業で、現在、2医療機関で実施。来年度より平生クリニックでも受診できると協定する予定。脳ドックは脳疾患の早期発見に有効な検査と認識している。来年度実施に向けて検討する。町が費用の7割を補助する方向で協議を進めたい。

小・中学校

消防設備の点検 國永

点検は年2回 尾崎教育長

Q 公立小・中学校の消防点検状況を会計検査院が調査すると消防設備の劣化等、問題が見つかったが修繕交換をしていないケースがあった。消防設備の不具合は子どもの生命に関わる事態となる。学校の消防設備に不具合はないか。点検などは行われているか。

A 本町では、小・中学校の消防点検を業者委託し、年2回行っている。本年の点検では麻郷小学校を除く各学校で経年劣化による消防設備機器の不具合があり、早急な補修取替を予定している。金額の大きなものは新年度の補修予定。学校の安全安心のもと対応する。



補修予定の防災監視盤（中学校）

◎その他の質問
寡婦（夫）控除について

要介護認定者の障害者控除

制度の周知を 國永

周知に取り組む 町長

Q 本町が発行する障害者控除対象者認定書があれば税申告において障害者控除の対象となる。必要な対象者に証明書を事前発行はできないか。町民税の申告の手引きの要介護認定者に係る障害者控除を分かりやすく記載できないか。この制度周知は十分か。

A 介護保険の要介護認定者で、一定の要件を満たす場合には、申請により、確定申告に必要となる認定書を発行する。認定書の事前発行は諸事情により困難と考える。情報提供は住民に分かりやすい内容に改め、制度の十分な周知に取り組んでいく。

◇高齢者の障害者控除（所得税、地方税）
身体障害者手帳等を持っていないくても、65歳以上の高齢者で要介護認定等の資料を基に「障害者に準ずる者」と認められると障害者控除を受けられることができる。

電動車いす

ナンバー導入を

清神 清

来年度導入したい

長信町長



清神 清 議員



電動車いすの講習会

Q 昨年12月議会での質問に町長はメリットがあると答弁。あれから1年が経過した。電動車いすを利用する高齢者がさらに増加している。事故が発生してから対策するのはなく、早急に地域ナンバープレートの導入に取り組んでいただきたいが、その後の進捗状況は。

A 町内におけるシニアカーの利用状況を把握するため民生委員や広報での情報収集を行った結果、17台の届出があった。今後、制度設計について社会福祉協議会や警察と具体的な協議を行い、来年度において地域ナンバーの導入が図れるよう準備したい。

小学校での動物飼育進捗状況は

清神

東小にウサギ4羽だけ

尾崎教育長

Q 最近、学校での小動物の飼育が出来なくなったり廃止されている。動物を通じて生の難しさとか、はかなさを学ぶ機会がなくなっている。動物と触れ合うことで様々な体験をしながら子どもたちは成長していく。町内の小学校で現在動物を飼育している学校はあるか。

A 現在、東小だけウサギが4羽飼育されている。他の小学校では、メダカやカブト虫等昆虫は飼育しているが、小鳥やウサギ等小動物を飼育していない。自然に近い形で



東田布施小のウサギ小屋

生命に対する畏敬の念や親しみを持ち生き物を大切にすることを願っている。

田布施川の河川敷カラー舗装を

清神

平成28年度予算で町長

Q 3月議会で提案した田布施の名所として定着している田布施川の河川敷にカラー舗装を、との要望をしたが、美観や住民の健康増進にも効果があり、県に事業要望すると回答だった。さらにスロープの新設も要望したが、その後の進捗状況はいかがか。

A 私も思いは同じであり、田布施川の河川敷改修協議の中で、県に対して要望してきた。回答は、検討したが、該当するメニューがないため、遊歩道の整備は不可能とのことでした。スロープは平成28年度予算に盛り込んで事業着手する予定と聞いている。

議会だより

127号を読んでの感想です

森林竹林の荒廃

河内 フサ子

十数年前より竹の子の時期になるとおいしい竹の子の収穫が嬉しくなるが、堀残しの竹の勢いは我が家の手ではどうにもならず、栗林は半竹藪となりつつある。地域内にも目立つ竹林。繁茂竹林の整備が行われていくことに期待する。

表紙に各地域の運動会。

私は何年か小学校の運動会に参加、見学させてもらっていつも感動をもらって帰る。子ども達が短期間にこんなにも統率がとれ競技やダンスに一生懸命取り組む姿に胸が熱くなる。先生達の指導には大変なものがあつたことがひしひしと伝わってくる。後半に行われる組体操には一層に感動だ。少人数でこの小さな子に何が!!怪我のないように先生達の気配りの中、見事に造る組体操だった。ここまで成長させて下さった先生方への感謝と頑張った子ども達へ「感動をありがとう」とここで伝えさせていただきます。

議会だよりを読んで

田中 清美

議会で議員さん達が、どのような活動をしているのか、なかなか議会を傍聴できない私達にとつて、議会だよりの記事は大切な役割を担っていると思っています。

このたび、議会広報モニターになって、議会だより(127号)を、じっくり読んでみました。

まず、これまで回答が太文字で、質問が標準字体であったところを、逆に質問を太文字にしたそうです。確かに質疑の論点がはっきりして良くなったと思います。

次に、地方創生の実務研修会の内容が大きく掲載されていました。今とても関心の高い問題でもあり、このところ一般質問では何度も取り上げられています。研修会の報告の形で取り上げていただいたお陰様で私も少し勉強できました。自然豊かな田布施町の良さが次世代に続くことを期待しながら読ませていただきました。

マイナンバーについて

反納 昭明

いま、「マイナンバー(個人番号)」の通知が各世帯に送付されております。「マイナンバー制度」が実施されれば、利便性の向上、行政の効率化等これからの生活の利便性は、特段に向上すること予想されます。平成28年の1月から実施されることになっておりますが、利便性に富んでいるだけにその半面も考慮する必要があると思います。すでに「マイナンバー」に関連した犯罪が発生しております。

田布施町は9月の定例議会では「マイナンバー制度」の実施に向けた補正予算も成立して、事務的な対応はなされているようですが、この制度の運用はやはり人が行うものです。悪用されて被害者が出ないよう、この制度に関わる関係者の研修等しっかりと行いたい。人々が安心してこの利便性を享受できるように万全を期していただくようお願いしたいと思います。

未納税の強化策

鳥枝 隆信

町税の未収額と欠損額累計が1億円以上、税の公平負担と財源確保の為、債権保全の対策が必要。監査委員の意見書を目に。回収の為の特効薬は存在しないがあらゆる手段を講じる必要が肝要である。ノーベル生理学賞に輝いた大村智氏はインタビューの中で北里柴三郎先生の「研究だけをしていてもダメだ。それをどうやって世間に役立てて売られて売れるか考えよ」の教えに今の自分がある。換言すれば「二円、一件でも多く回収する為にどうするか工夫しなさい」である。時効の中断、債務名義(強制執行の為の公文書)の取得、両車輪の構築ができれば、債権回収はより効率化が図られよう。費用対効果の問題もあるが、民間委託への動向も拡大している。債権回収対策が絵に描いたもちに終わることなくPDCAを基盤とし、効果を発揮されるよう期待します。

同町は人口2万9千人、隣接する広島市と合併協議会の協議は整っていましたが、議会がこれを否決した経緯があり、今日の町勢があるとのお話でした。

熊毛郡3町議会広報修正

熊毛郡3町の議会広報委員会は平成27年11月24日広島県海田町を訪問し研修しました。

同町は人口2万9千人、隣接する広島市と合併協議会の協議は整っていましたが、議会がこれを否決した経緯があり、今日の町勢があるとのお話でした。

議会広報特別委員会は平成5年9月に町民によく読まれる議会広報にどの目標を掲げ、爾来103号を発行しています。その広報は見事なカラー印刷で発行されています。一般質問は各議員1問のみ掲載され、余白も十分とり、文字も大きくして読み易く読者に配慮がなされています。同町の取り組みを学び、本紙発行に生かしてまいります。

3月定例会の日程(予定)

3月11日から24日まで14日間の開催予定です。正式には、3月7日開催の議会運営委員会で決定されます。

◆お礼◆
議会広報広聴モニターの皆様にはご多忙な中にもかかわらず、毎号貴重なご意見やご感想をいただき厚くお礼申し上げます。

壱岐を旅して



藤山 巖

博多港から乗ったフェリーは2時間余りで島の玄関口郷浦港に着いた。待合せの車に乗り、先ず博物館へ向う。長崎県壱岐市は玄界灘に浮ぶ人口3万の島で古代一支国として倭国(日本)と大陸を結ぶ海道の要衝の地である。原の辻遺跡など数々の国指定遺跡の出土品からは大

陸との交易で栄えた海の王都を彷彿とさせずにはいない。旅の終りに松永安左エ門記念館に立ち寄る。戦後の日本の復興や電力再編に精魂を傾け、後に電力の鬼とまで称された彼の独立自尊の生き様に触れ、込み上げる感涙を抑えるように島を後にした。

正月の箱根駅伝・ラグビー大学選手権



瀬石 公夫

大学の山口県支部柳井地区役員に就くことになり、母校から新聞や書類が届くようになった。その新聞に箱根駅伝に47回目の出場と掲載されていた。また、ラグビーも全国大学選手権準決勝に進出した。正月2日はダブル応援となった。早朝からテレビで駅伝の

中継を観る。昨年の十位がキープできず残念ながらシード権を失った。ラグビーは六連覇中の相手校に健闘したが敗北であった。しかし、親子ほど違う後輩が汗にまみれ、泥まみれになり戦い、感動である。私も町民の方々の幸せや豊かさのために、しっかりと仕事をしなくては。

議員リレー随筆

山口県町議会広報研修会

県議長会主催の町議会広報研修会は田布施町庁舎で11月27日に開催された。広報紙を発行している県内5町議会から30名の広報委員が参加した。2班に分かれ、各班のリーダーは田布施町議員が務め意見交換した。

主な質問事項として未成年者の写真掲載の同意、議会だよりのレイアウトと記事内容、町民の意見・要望の収集方法、字数制限、掲載写真の注釈、アンケート調査、住民懇談会など。

少しでも多くの読者に手にしてもらえぬ議会広



県広報研修会

報紙の作成を目指す気持ちを持たせた。新年号を期待してください。

熊毛郡議会議員合同研修大会

10月23日サリジェにて、熊毛郡議会議員合同研修会が行われ「空き家対策について」講演があり、山口県土木建築部住宅課長尾玉尚氏と主任東村美穂氏より説明がありました。

内容は、空き家の現状

と課題、空家等対策の推進に関する特別措置法、県及び市空き家対策に係る取り組みについてでした。また、他県での特定空家の行政代執行の実例、山口県空き家対策連絡会の設置、空き家相談窓口の説明もありました。

編集後記

明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は田布施町合併60周年記念式典が盛大に執り行なわれ、吹田愧氏に名誉町民の称号と名誉町民章が授与され、また田布施町を愛し貢献くださった多くの方々に、功労者表彰および感謝状が授与されました。引き続き、吹田名誉町民の記念講演「田布施町の心」があり岸 信介元総理を支えた裏話や町の歴史など聞くことができました。先人の偉大さ、田布施の歴史の重さを痛感いたしました。故郷の歴史・風景を大事にし後世に引き継いでいかなければならないと決意を新たにしました。

(瀬石 公夫)